

11 月特別例会『侍タイムスリッパー』

会員だけでなく一般の方も有料で鑑賞できる特別例会(鑑賞会)、11月12日(水)

ずいぶん朝夕涼しくなってきました。何を着ようかと思案する毎日です。みなさん体調崩していませんか？

10月の播州地方は、あちこちで祭りがにぎやかです。私の田舎は、「獅子舞」なので一度「神輿」や「山車」の祭りを見たいと思っています。さて、9月例会久々の台湾映画でした。感想は54枚寄せられました。新入会は9名。130名を超えました。

11月例会は、一般オープンで「侍タイムスリッパー」です。監督は、デビュー作「拳銃と目玉焼き」(2014年)、をつくった安田淳一さんです。監督自身、米農家として働く中で、若い女性の奮闘を描き、現代の農業が抱える問題にも触れる「ごはん」(2017年)は2作目です。3作目の「侍タイムスリッパー」は、日本アカデミー賞を最優秀作品賞を獲得する大ヒットとなりました。テレビでも放映されましたが、CMのない時間を過ごしていただきたいので、是非お友達誘ってご参加ください。

さて、気持ちよく映画を鑑賞するためのマナーですが、着信音は本人が思っている以上に大きく聞こえますので、スマホの電源を切ることを忘れないようにお互い気をつけましょう。

また、午後からの準備、夜の片付けの人数が少ないので、時間に余裕のある方、ぜひお手伝いをお願いします。

例会のお知らせ

■名称／第 138 特別例会『侍タイムスリッパー』

■日時／2025 年 11 月 12 日(水) ①AM10:30～、

②PM1:30～、③PM4:00～、④PM6:30～

■場所／加古川総合文化センター大会議室

(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ 600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きしていない方は、受付で 4 箇月分の会費(2000 円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受取りください。今回は、特別例会のため一般の方は有料で鑑賞することができます。

【例会作品データ】

■タイトル／『侍タイムスリッパー』

■監督・脚本・撮影／安田淳一

■出演／山口馬木也、富家ノリマサ、沙倉ゆうの、峰蘭太郎、庄野崎謙、紅萬子、福田善晴、井上肇、安藤彰則、田村ツトム、多賀勝一、吹上タツヒロ

■データ／2023年、日本、131分

■ジャンル／時代劇コメディ、ヒューマンドラマ

■ストーリー／時は幕末、京の夜。会津藩士高坂新左衛門は暗闇に身を潜めていた。「長州藩士を討て」と家老じきじきの密命である。名乗り合い両者が刃を交えた刹那、落雷が轟いた。やがて眼を覚ますと、そこは現代の時代劇撮影所。新左衛門は行く先々で騒ぎを起こしながら、守ろうとした江戸幕府がとうの昔に滅んだと知り愕然となる。一度は死を覚悟したものの心優しい人々に助けられ少しずつ元気を取り戻していく。やがて「我が身を立てられるのはこれのみ」と刀を握り締め、新左衛門は磨き上げた剣の腕だけを頼りに「斬られ役」として生きていくため撮影所の門を叩くのであった。

(作品ホームページから)



■解説／現代の時代劇撮影所にタイムスリップした幕末の侍が時代劇の斬られ役として奮闘する姿を描いた。

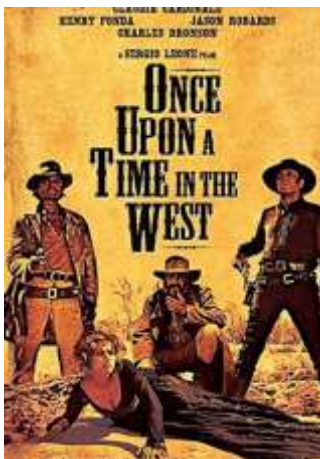
新左衛門は行く先々で騒動を起こしながら、江戸幕府が140年前に滅んだことを知り、がく然とする。一度は死を覚悟する新左衛門だったが、心優しい人たちに助けられ、生きる気力を取り戻していく。やがて彼は磨き上げた剣の腕だけを頼りに撮影所の門を叩き、斬られ役として生きていくことを決意する。

時代劇を撮影する映画撮影所が舞台ということで、往年の『蒲田行進曲』と同様、いやそれ以上に、時代劇とその舞台を愛する者に対する敬意と愛情が強く感じられる作品。

第48回日本アカデミー賞最優秀作品賞作品。

私の映画KAN「マカロニウエスタンの中のクラウド・カルディーナレ」

イタリア映画俳優のクラウド・カルディーナレさんが9月23日に死去されました。87才です。私がクラウドさんを知ることになったのは、10代の頃に観たマカロニウエスタンです。邦題が『ウエスタン』(1969年、原題ワンス アポン ア タイム イン ザ ウェスト=昔むかし西部で)、セルジオ・レオーネ監督、キャストは、ヘンリー・ホンダ、チャールズ・ブロンソン、ジェイソン・バーズらで、演技派達の静かなアクションの中で、クラウド・カルディーナレの紅一点としての中心的役割を果たしているのがとてもよかった。大ファンになりました。また、エンニオ・モリコーネの音楽が西部劇の背景を盛り上げているのもいい。



続いて、翌年『赤いテント』(1970年)も観にきました。キャストはクラウド・カルディーナレ、ショーン・コネリー、ピーター・フィンチ、音楽はエンニオ・モリコーネです。映画関係者の訃報を知ることになりますが、10代の自分を思い出します。(芳)

前回の例会報告

9月17日(水)の9月例会では、台湾の俊英フー・ティエンユ監督が、自身の母親をモデルに執筆した脚本をもとに、実家の理髪店で撮影を敢行して完

成させたヒューマンドラマ『本日公休』を鑑賞しました。離れた町から通い続けてくれる常連客の“先生”が病に倒れたことを知ったアールイは、店に「本日公休」の札を掲げ、古びた愛車に乗り込んで先生のもとへ向かうロードムービーで、参加者からも良い感想が多かった。

会員98名が参加、新入会員9名、明石シネマクラブ会員16名でした。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／第92回例会

『ドリーム・ホース』

(2020年、イギリス、113分)

■監督／ユーロス・リン

■出演者／トニ・コレット、
ダミアン・ルイス

■内容／イギリス・ウェールズを舞台に、片田舎の小さなコミュニティで育てた競走馬が最高峰のレースに挑んだ実話をもとに描いたヒューマンドラマ



■日時／12月19日(水)①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所／アスパア明石9階午線ホール(JR明石駅徒歩5分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662(金沢まで)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kakogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

※ファクシミリ番号が変わっています。

会員数 134 人(9月17日現在)